

平成26年千葉市教育委員会会議  
第10回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成26年千葉市教育委員会会議第10回定例会会議録

日時 平成26年10月15日(水)

午後2時00分開会

午後2時50分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 和田 麻理  
委 員 中野 義澄  
委 員 内山 英夫  
委 員 明石 要一  
委 員 小西 朱見  
教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 田辺 裕雄 保 健 体 育 課 長 津野 政彦  
教 育 総 務 部 長 米満 実 教 育 セ ン タ ー 所 長 遠藤 悟  
学 校 教 育 部 長 磯野 和美 養 護 教 育 セ ン タ ー 所 長 山本 雅司  
生 涯 学 習 部 長 朝生 智明 生 涯 学 習 振 興 課 長 増岡 忠  
総 務 課 長 石野 隆史 中 央 図 書 館 長 松尾 修一  
企 画 課 長 大崎 賢一 生 涯 学 習 振 興 課 科 学 教 育 推 進 担 当 課 長 西村 安正  
学 校 施 設 課 長 真田 賢一 総 務 課 総 括 主 幹 小名木 啓一  
学 事 課 長 小川 彰 学 事 課 長 補 佐 布施 善幸  
教 職 員 課 長 伊藤 剛 指 導 課 主 任 指 導 主 事 篠塚 和仁  
指 導 課 長 山本 幸人

書 記 総 務 課 長 補 佐 山本 春樹 総 務 課 主 任 主 事 佐久間 暁子  
総 務 課 総 務 係 長 渡邊 実 総 務 課 主 事 荒井 博行  
総 務 課 主 任 主 事 杉山 隆

## 1 開会

和田委員が委員長の職務を代行し、開会を宣言

## 2 会議の成立

全委員の出席により会議成立

## 3 会議録署名人の指名

和田委員長職務代理者より中野委員を指名

## 4 会期の決定

平成26年10月15日（1日間）ということで全委員異議なく決定

## 5 議事日程の決定

議事日程を全委員異議なく決定

## 6 議事の概要

### (1) 委員長の選挙及び委員長職務代理者の指定

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条並びに千葉市教育委員会組織規則第3条及び第4条の規定に基づき、委員長の選挙及び委員長職務代理者の指定が実施された。

### (2) 報告事項

報告事項(1) 平成26年第3回千葉市議会定例会について

石野総務課長より報告があった。

報告事項(2) 第57回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会第1部について

山本指導課長より報告があった。

報告事項(3) 平成26年度千葉市図書館子ども読書まつりについて

松尾中央図書館長より報告があった。

### (3) 発言の要旨

委員長選挙及び委員長職務代理者の指定

ア 委員長の選挙の方法の決定

和田委員長職務代理者 それでは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条及び千葉市教育委員会組織規則第3条の規定に基づき、委員長の選挙を執り行います。

本日、平成26年10月15日からの1年間、委員長を務める方を選ぶこととなります。選挙の方法ですが、組織規則第3条第2項の規定により、選挙の方法は「委員が協議して定めるところによる」となっていますが、いかがいたしましょうか。

志村教育長 指名推薦の方法を提案します。

和田委員長職務代理者 ただ今、指名推薦の方法でとの提案がありましたが、いかが

でしょうか。（「異議なし」の声）

全委員異議なく、委員長の選挙の方法を指名推薦とすることと決定した。

#### イ 委員長の選挙

和田委員長職務代理者 それではどなたか、この本日からの1年間、委員長の職を務める方を推薦いただけますか。

内山委員 私から、和田委員に、引き続き委員長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

和田委員長職務代理者 ただいま、私をご推薦いただきましたが、他にどなたか、別の方を推薦される方はいらっしゃいますか。（他に推薦する者なく、「異議なし」の声）

全委員異議なく、和田委員の委員長再任が決定した。

#### ウ 委員長職務代理者の指定

和田委員長 引き続き、委員長職務代理者の指定に移ります。職務代理者の指定の方法は、法第12条第4項及び組織規則第4条の規定により、委員長である私より推薦し、皆さんの同意を得るということで決定したいと考えます。私からは、いつも熱心に教育委員として取り組んでいただき、そして教育に関する知識も大変深いということから、中野委員を職務代理者として推薦したいと考えますが、中野委員、そして委員の皆さん、いかがでしょうか。

（中野委員、就任承諾。「異議なし」の声）

全委員異議なく、中野委員の委員長職務代理者就任が決定した。

#### 報告事項(1) 平成26年第3回千葉県議会定例会について

和田委員長 総務課長、報告をお願いします。

石野総務課長 報告事項(1)「平成26年第3回千葉県議会定例会について」、報告します。

第3回千葉県議会定例会ですが、9月8日から10月3日まで、教育未来委員会、代表質疑、決算審査特別委員会分科会、一般質問等が行われました。

次に、教育委員会に関する提出議案等の審議状況について報告します。まず市長からの提案の、千葉県教育委員会委員の任命についてですが、9月19日の本会議において、小西朱見委員の任命について同意されました。次に、決算の認定についてですが、教育委員会にかかわる一般会計歳入歳出決算、公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算、学校給食センター事業特別会計歳入歳出決算については、決算審査特別委員会の審査を経て、10月3日

の本会議で認定されました。次に、発議第21号「千葉市学校教育環境検討委員会設置条例の制定について」ですが、本発議は教育未来委員会の審査を経て、9月19日の本会議において否決されました。

次に、代表質疑・一般質問について報告します。まず、9月17日から19日に行われました代表質疑についてですが、7会派全てから通告があり、うち6会派が教育委員会に関する質疑を行いました。主な質疑の項目はお手元の資料のとおりです。また、9月26日から10月2日に行われました一般質問についてですが、26人から通告があり、うち14人が教育委員会に関する質問を行いました。主な質問の項目はお手元の資料のとおりです。

次に、請願・陳情の審査について報告します。まず、請願ですが、請願第10号「学校の老朽化対策、トイレ改修、エアコンの設置を求める請願」、請願第11号「小中学校・特別支援学校のすべての教室にエアコンの設置を求める請願」が市議会議長宛てに提出されました。本件については、教育未来委員会の審査を経て、9月19日の本会議において、請願第10号については採択送付、請願第11号については不採択とされました。次に陳情ですが、陳情第4号「中学校給食の食物アレルギー対策に関する陳情」、陳情第5号「慰安婦問題に関して正しい歴史教育を行うことを求める陳情」が市議会議長宛てに提出されました。本件については9月12日の教育未来委員会において、陳情第4号については不採択、陳情第5号については採択送付とされました。

## 報告事項(2) 第57回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会第1部について

和田委員長 指導課長、報告をお願いします。

山本指導課長 報告事項(2)「第57回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会第1部について」、報告します。

9月20日から23日までの4日間、きぼーる1階きぼーる広場及び千葉市科学館を会場に開催されました。この総合展覧会科学部門は、夏休みに児童生徒が取り組んだ自由研究や科学工夫の優秀な作品を一堂に陳列し、その成果を公開するものです。

各学校から選ばれた作品総数は1,028点です。その中で、223点が推奨に選ばれ、さらにその中の93点が10月18日から19日に千葉県総合教育センターで行われる千葉県児童生徒・教職員科学作品展に出品されます。会期中は大変多くの皆様

が訪れ、4日間で5,949人に参観いただきました。

7階企画展示室が狭い中、小学校作品を全て展示していたため、参観者で混雑してしまった反省から、昨年度からの取り組みとして、1階きぼ一る広場にも展示することとしました。あわせて、参観者にとって内容がわかりやすくなるよう、特設ステージでの作品紹介や解説を行うこととしました。また、4年前に創設した教育長賞に加え、科学館賞を新設し、科学フェスタでの作品発表の機会を設けることにしました。

1階きぼ一る広場には、5・6年生の科学論文と小学校の科学工夫作品で県展に出品する作品の一部をガラスのショーケースに入れ、鑑賞しやすいように工夫しました。また、午前と午後に3回ずつ出品作品の紹介を行いました。理科主任会の役員や参観に来た児童生徒による作品紹介は多くの参観者から注目を集め、大変好評でした。

7階企画展示室では、1階きぼ一る広場に展示した作品を除く小学校作品を展示しました。混雑は緩和されましたが、多くの参観者が訪れ、作品を囲んで家族で写真を撮る姿が印象に残りました。市長が参観したときに一緒に写真を撮り、家族そろって喜ぶ姿も見られています。

8階科学実験室では、中学校の作品を展示しました。観察や実験をいろいろな角度から行い、科学的な手法に基づいて探求した論文や実用的なアイデアを取り入れた工夫作品に感心しながら、じっくり見入る人々の姿が見られました。また、中高生を対象とした、未来の科学者育成プログラムの活動の様子をパネル展示で紹介をしました。

次に、教育長賞の紹介をします。選考の視点は、内容が余り専門的過ぎず、他の人が研究するときの参考となるような優秀なものであり、教育長自らが選出したものです。科学論文では、大宮台小学校5年、本澤伸幸さんの「バッタの研究パートⅣ～色変わりの謎にせまる！～」が選ばれました。4年間の継続研究で、バッタが変色する仕組みについて周囲の環境や餌などがどのように影響するか、さまざまな角度から取り組んだ研究です。何世代も育てながら、幻のピンク色のバッタを再現したことが高く評価されました。なお、本日3時にその賞がホームページ上で公開されるということですが、この作品は県で一番優秀な県知事賞になり、全国展に内定したと報告を受けています。

もう一つは緑町中学校3年、中村亮輔さんの「津波の研究3～津波の引き波の力と速さ～」が選ばれました。東日本大震災を経験したことを動機として、津波について3年間研究した作品です。今年は津波の引き波について水量や水深、水底の傾斜に着目し追求しました。自作の実験モデルで条件を制御し、結論を導いている点が高く評価されました。

次に工夫作品ですが、瑞穂小学校5年、大森愛海さんの「花火大会」です。花火大会の様子を再現するために、さまざまな工夫を凝らした楽しい作品です。特に、鉄球を転がすことにより導線との接点を調整し花火が点滅するようにした点や、万華鏡の仕組みを応用し丸い花火に仕上げた点、連続して花火が上がるように鉄球をもとに戻す工夫などは高く評価されました。

最後に、川戸中学校3年、國分慧さんの「自動水やり器Ⅲ」です。3年間改良を重ねた力作です。特に、タイマーとして2つの時計を使い、短針と長針に電極をつけて配線の工夫により時間設定を変えられるようにした点や、回転式の水やり部分の容器をスムーズに回転させる工夫などが高く評価されました。

全体的な傾向として、科学論文では植物や小動物など、児童生徒にとって身近なものをテーマとした作品が多く見られました。また、継続研究が多くなっているのも特徴の一つです。科学工夫作品についても、モーターや磁石を使った動きのある作品や仕組み、単純でも工夫を凝らした楽しい作品、生活の中で使える便利な作品など、日常生活との関連の深い作品が多く出品されていました。

なお、今年度は加曽利貝塚について昨年度から研究している貝塚中学校に対して特別賞を贈呈しました。今後の取り組みにも期待をしているところです。

また、優秀作品については、今後の研究の参考となるようアーカイブ化し、ホームページで今年度中に公開する予定です。来年の1月24日から2月1日には総合展第2部も開催する予定ですので、この第1部に引き続き、第2部もご覧いただければと思います。

明石委員 57回というのは、第1部門の科学部門も57回に入るのでしょうか。その上のほうの児童生徒作品総合展覧会が57回で、科学部門はそのうちの例えば30回なのではないでしょうか。もし57年前から科学部門があれば、千葉市の見識は高いという感じはする

ので、まずその1点をお聞きします。

山本指導課長 第1部と第2部、それぞれ57回実施しています。

明石委員 わかりました。

それから、これも多分、昨年聞いたと思うのですが、出展数が小中学校で科学論文と科学工夫があり、小学校が多くて中学校は減っているのですよね。これは、高校はもっと減ってくると思うのですが、この減り方はこの57年間での形として、ずっと中学校のほうがこのような割合で低いのか、ここ15年くらいで中学生の科学離れが増えたからこうなってきたのかなど、本当は文科省で発表すれば良いのですが、多分そこまで持っていないので、せっかく57年の歴史がありますから、千葉市が先頭を切って、この57年間の小中学生の科学に対する関心がこうなっているというのが欲しいですね。

実は私も参加した国立青少年教育振興機構に、韓国と中国とアメリカと日本の高校生の科学等に関するデータがあり、日本が科学への関心が一番低いのですね。小学生は夏休みの自由研究があるので関心が高いのですが、中学生、高校生から理科嫌いが増えてくるということが言われているけれども、実はそれは千葉市は違うということがわかればと思うので、そのようなデータがもしあれば教えてもらいたいし、急な質問なので、もし今日無理な場合は、次回でもデータをそろえてもらえればと思っています。

もう一点は、県展へ出品する論文が小学生が26人、中学生が18人います。多分この割合は余り変わっていないと思うのですが、中学生が高校へ行って、大学へ行ってなど、その3年なり7年の、また10年の彼らの追跡となるフォローアップ調査はどこまでしているのか。例えば市立千葉高校の理数コースにここから何人入っていたり、千葉大学の飛び級に何人入っているというような子どもがこの中から出てきているのか、それとも、もう燃え尽きて、高校は一般入試で行ってしまうのか、せっかくこのようなことをやってくれているので、その辺がデータでわかればという感じがします。

山本指導課長 出品点数のことですが、これは誰もが出品できるというわけではなく、夏休み作品展を必ずクラスごとに実施しており、その中で優秀なものを理科主任、校長が選び、学校のクラス規模に応じて出品しています。小学校のほうが人数が多いということで、このような出品点数となっています。児童生徒数の増減によって



この出品点数も若干増減しますが、ほぼ同じ数で出品はしてもらっています。ほとんどの子どもたちは絵なども含めた何らかの夏休みの自由研究に取り組んでおり、その中から選ばれてきます。

優秀な作品に選ばれた子どもたちが、この後、千葉市立千葉高校や千葉大学の飛び級に合格したというようなデータは持っていません。小学校で優秀な作品を出した子どもたちが中学校でどうなったかというような調査はできることはできますが、それ以降になりますと、少々難しいところもあるかとは思っています。しかし、市立千葉高校等については探ってみる余地はあるかと考えています。

明石委員　そこで、意見ですが、できたら、教育センターというシンクタンクがありますから、そこの特命事項として、このようなことをフォローアップしてもらいたい。もし職員が多忙ならば、長期研修生が理科の分野で来たときに、個人研究でなく、このような千葉市の課題に応える長期研修生のテーマも考えてもらえればと思っています。57年というのはすごいですよ。半世紀以上、オリンピックよりも長くやってきているのは、やはり千葉市の財産かと思えます。

2つ目の意見は、私も会期中に参加して、非常に感銘を受けました。1人先生がついてくれて、なぜ教育長がこれを選んだのかなど、その視点をいろいろ説明してくださり、リアリティーがわかったのですよ。よく、大英博物館でも、国立歴史民俗博物館などの大きな博物館に行くと、自分独りで音声ガイドで聞けますよね。だから、その4日間は、音声ガイドは難しくても、教育長賞や、館長賞には、なぜこのようなのが良いかという志村教育長の視点をちょっとした文章で書いてくれていると、読めば、「なるほど、そうやって見ればいいか」と素人の方がわかるという意見です。

和田委員長　本当ですね。それと少々同じようなことになるかもしれませんが、デモの時間が午前と午後で何回かあるということでしたが、やはり見ていると、工夫作品に関しては、「これはどうやったら動くのかな」、「動いたところ見てみたいよね」という親子の声をたくさん耳にしました。やはり一度動かしてしまうと、どれを触っても良いと思ってみんな一斉に触り始め、収拾がつかなくなるということもあるそうです。しかし、何とか工夫して、もう少しその動いている場面を来ている方たちが見られるよう

であれば、来た人たちにとっても非常に良い刺激になるのではないかと思います。

内山委員 私も非常に関心を持ち、毎年子どもたちの素晴らしい作品にさわります。教育長賞もらったものを含め、膨大なデータを、うまくまとめていますね。明石委員と同じですけども、私もやはり、これだけの才能がある子どもたちがどのように伸びていくのかというフォローをしていきたいと思うのですね。やはりスポーツも、中学生で頑張って全国で優勝しても、高校でだめになり、燃え尽きてしまうような現象が時々あります。なかなか続けていくのは難しいのですね。知的な世界では、もっと寿命が長いはずですから、そのような優秀な子どもたちを、それこそノーベル賞もらうくらいに励ましていくような一つのストーリーが欲しいと思います。

それと、やはり子どもたちが一生懸命やっていますが、保護者、あるいは教員の指導がどのくらい入っているのか。というのは、私は小学校、中学校、遊びまくったものですから、あれだけの膨大なデータが信じられないですね。そういった意味では、良い意味での連携プレーだと思いますけれども、とにかくあの作品を見ますと、本当に信じられないぐらいですね。でも、さっきも言いましたけれども、優秀な才能を持続してもらいたいと思います。よろしくお願いします。

和田委員長 先ほど県知事賞と話のあった大宮台小学校の本澤君がちょうど発表しているときに私も行き、ちょっとお父さんにインタビューしたのですが、お父さんが手伝っていることは、バッタ捕りに連れていくことと、書いてきた文章に間違いがないかどうかを確かめることだということでした。しっかりと見守り、つかず離れずの距離をとっていらっしゃるのだと、非常に感心しました。

それと、とても字がきれいだったので、非常に感心しましたけれども、そうしたら書道を習っていたそうでした。

志村教育長 先程の工夫作品の件は、触っても良いのだけれども、すぐに県展があるのですよね。ほとんど壊れてしまうと、持ち帰ってすぐに直して、県展は動かなければ審査に入れてもらえません。だからどうしても、優秀な作品で県展に行く作品ほど大事にしておいて、なるべく改良するところは改良するけれども、学校に戻って1日か2日ですぐ県に持っていかなければいけないという状況があります。総合展覧会が最後だったら多分触っても良いのか

もしれないですが、優秀な子どもたちはその後の県をみんな考えているので、電池をとっちゃったり、色々なことをやっているわけですよ。明石委員の話の中に数字がありました。まず学校での予選に勝ち抜いて、それで市に行き、市の中でまたそれで優秀なものが県に行きます。さらに県に行き、この本澤君は恐らく全国に行くわけですから、そうなるかとやはり、あの1つのステップを私たちは見ているという感じなのだろうと思います。ただ、やはり見てもらって、来年以降の励みになるという意味では、大事な作業だと思います。

また、中学生が高校に行った後、続かないというのは3年生になってそれどころじゃないよという気持ちがあるかと思いますが、力が少し落ちてくるのではないかと思います。そのため、このような優秀な子どもは、飛び入学を高校でできるなど何か考えられないのかという話もあったのですが、公立高校の入試というのは、確かにいろんな問題は抱えていると思います。やはり一定の決まりがあるから、その中でクリアしなくてはいけない問題があると思います。しかし57回続いてきたということは子どもたちにとって目標になっていますので、担当のほうもこれから先、頑張るとのことでした。

さらに、説明をきちんとするということが、市民への理解にもつながっていくことだろうと思いますので、あわせて検討してもらいたいと思います。

内山委員 もう一ついいですか。今回、科学フェスタのときに、科学館賞の発表会がありました。質問すると、ちゃんと答えてくれ、立派に発表していました。一生懸命やった成果だろうと思い、感動しました。子どもたちの発表の場というのは良いので、このような場もぜひ続けてもらいたいと思います。

和田委員長 継続研究が増えていることが目立ったという話がありましたが、今回も継続研究ですばらしい作品を出してきた子どもたちが教育長賞を受賞しています。この子どもたちは、継続研究している中で何回も受賞していますか、それとも、研究の中で、最後のすごいところに来たというところで受賞に結びついているのでしょうか。

山本指導課長 科学工夫論文作品では、中学校256点中18作品、小学校が518点中26作品が県に出品されていますが、そのうちの中学校は18作品のうち6作品、小学校は26作品のうち12作品

が継続研究に取り組んでいます。継続研究も増えています。その年度の内容で選んでいます。研究のテーマがしっかりしているせいか、多くの作品が県に出品されているようです。今回、全国に行ったとしても、来年さらにすばらしければ、また選ばれる可能性もあるし、来年は余り発展性がなかったということであれば選ばれない可能性もあります。単発の作品に比べるとテーマがしっかりしているという点で結構選ばれやすいという点があると思います。

和田委員長 何度も受賞してきているお子さんもいるということですね。

山本指導課長 そのような子もいますし、そうではない子もいます。

報告事項(3) 平成26年度千葉市図書館子ども読書まつりについて

和田委員長 中央図書館長、報告をお願いします。

松尾中央図書館長 報告事項(3)「平成26年度千葉市図書館子ども読書まつりについて」、報告します。

趣旨についてですが、子ども読書まつりは、千葉市子ども読書活動推進計画に基づき、学校や地域などと連携し、子どもや保護者などの多くの市民に読書への関心を高めてもらうことを目的として平成16年度から開催しているもので、今年度は中央図書館と地区図書館6館、分館6館の計13館で実施します。昨年度は分館については2館の参加でした。実施日程については、記載のとおりです。

次に実施内容ですが、実施イベント一覧に記載のとおりですが、今年度は絵本の読み聞かせ、科学遊びや工作など、昨年度実施していた事業のほかに、みやこ図書館で行った自転車の荷台で紙芝居を行うというようなもので、玄関の外でビニールシートの上に体育座りをして紙芝居などを行う「昔なつかし紙芝居」や、花見川図書館では「私のオススメ読んでみて!」と称して、お勧めするコメントつきで本の紹介を行うスペースを設けました。10月8日の時点ですが、既にその地区の児童から38件、一般の方からも55件、図書館に寄せられたそうです。こういった新しい事業も織りまぜて実施をします。

最後に、広報についてですが、市政だよりや記者への資料配布、ポスター、チラシなどの掲示、配布など、さまざまな方法で広報しています。

今年もそれぞれの館で工夫を凝らした事業が展開されますので、どうぞよろしくをお願いします。

明石委員 去年よりも大分増えたらしくて、ご苦労様でした。細かいことですが、10年経ちますから、これは10回なのか、11回なのか。先程の総合展覧会は57回とありましたから、ここに通し番号を打っていただくと歴史の重みがわかってきますし、できたら10年なら10年の記念の一つのイベントというのを考えてもらおうと、市民に伝わる気がします。随分頑張っているから、その努力を市民の方にわかっていただく工夫もすれば、もっと良くなるかという感じがしています。

和田委員長 16年度からということで、今年は11回目になりますか。

松尾中央図書館長 11回目です。

和田委員長 10周年は過ぎてしまったので、20周年に向けて何か大きなイベントを考えてもらえればと思います。

中央図書館で去年は加曽利貝塚のコーナーがあったかと記憶しているのですが、今年はないのはどのような理由ですか。

松尾中央図書館長 私は今年から就任しているため、実施していた状況というのは把握していないのですが、確かに加曽利貝塚の全体的な盛り上げということで、開催をしたと聞いています。また新たな状況で、千葉市のPRができるものがあれば、新たな事業として展開していきたいと考えています。

和田委員長 チャンスを逃さないように、加曽利貝塚をPRしてもらえればと思います。

これは子ども読書まつりですが、大人読書まつりというのはいですね。子どもの読書量の調査など、学校を通じて実施できますが、子どもが本を読むためには、結局その家庭の保護者の方が読んでいないと、なかなか子どもにはその環境が伝わりません。大人読書量調査ではないですが、大人が今どのように本を読んでいるのかということも、もし調査ができて、そこをターゲットに何か働きかけができていければ良いと思いますので、検討してほしいと思います。

松尾中央図書館長 はい、わかりました。

## 7 その他

- (1) 小西朱見教育委員から、教育委員就任の挨拶があった。
- (2) 『私の思い』～中学生の主張～千葉県大会』について、明石委員から報告があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

明石委員 9月28日に千葉県青少年協会が主催で、「中学生の主張」千葉県大会が開催されましたが、千葉県で48校の中学校、2、

798編の参加がありました。これで嬉しかったことは、千葉市の去年参加した中学校が4校でから、今年はおかげさまで9校になりました。さらに13人の選抜された生徒により、午後発表会があったのですが、その中に千葉市立中学校から4人が選ばれたのです。さらに県立千葉中学校が2人選ばれていますから、13人中6人が千葉市内の方ということは非常に快挙なのです。千葉市も指導課のおかげで、生徒会の交流もやっていますし、相当中学校の中で、このような中学生の主張もやっているとと思いますが、そのような主張する催し物をもう少し増やしてもらえると、県の大賞や、全国大会で賞をもらえるかもしれません。ディベートまではいきませんが、自分の意見を世間に訴えていくという力というのは大事かと思えます。

和田委員長 英語発表会はありますが、日本語の弁論発表会はなかなか大々的に開催されていないので、来年度以降もぜひ働きかけ、この機会を逃さないようにしてもらえればと思います。

(3) 科学フェスタ2014について、内山委員及び和田委員長から所見が述べられた。

内山委員 先ほど話したように、作品を見ましたが、やはり気に入りましたね。発表会もよかったです。

和田委員長 昨年にも増して、とても活気があふれていて、私もすばらしいと思ったのですが、どうしても入ってすぐに、どこで何をやっているかというのがわからないのが少々残念に思いました。特にアトリウムや、3階のアリーナではたくさんのブースが出て、細かく分かれているのですが、例えばデパートの物産展などでよくあるように、上のほうの高い所にブース名が書いてあるだけでも遠くから見るとよくわかると思いますので、そのような工夫を来年度以降してもらえればと思います。

(4) 非常変災時の休校について、和田委員長から質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

和田委員長 このところ台風が続き、学校や、公民館に関してもいろいろ大変だったかと思うのですが、休校になる規定について少々お聞きしたいと思います。今回は秋休み中でしたが、前回はちょうど週明けだったこともあって、休校の判断が難しかったのではないかと思います。いかがでしょうか。

小川学事課長 休校の判断については、千葉市では教育委員会でガイドラインをつくっており、千葉市内に午前7時の段階で千葉市内に暴風

警報が発令されていれば、午前は休校で、午前11時の段階で継続されていれば、午後もあわせて休校という形になります。そのような形で、年度初めから保護者の方々にお知らせしてきたところですが、11時の部分が他市に比べてわかりづらいということがあり、校長会等でも指摘されているので、このところは少し検討していきたいと思っています。

もう一点、今回のような土日をまたいだという場合です。台風の進路等によっては心配となりますが、隣の船橋市や市原市などについては全市的に休業しています。千葉市も昨年度休校したことがあり、そのような判断をすることもあり得るため、そのような場合、どのような形で保護者に確実に漏れなく連絡が行くかということについては、検討していかなければいけないと思っています。

和田委員長 いろいろなパターンがあり、大変かと思いますが、子どもたちが安全に過ごせることを第一にお願いしたいと思っています。

明石委員 10月6日付の市長への手紙で、「小学校に子ども2人が通っていますが、今日の台風の措置で連絡がなくて大変不安でした。警報が出ているので行かせないほうがいいと思いましたが、メールもしくは連絡網などで学校から連絡してほしい」というのがありました。やっていると思うのですが。

小川学事課長 今学校に依頼しているのは、基本的な対応については、保護者に前もって文書等でお知らせするよう依頼しています。急に台風が早まったり、急にそれたなど、違う展開になった場合については連絡メール等でお知らせするという形で、校長会では話しているところですが、学校によってはそのような判断がなかなかうまくいかないところもあったのかなと思っています。その学校がどうしてそのような対応をしたかについては十分把握していないため、後でまた調べておきたいとは思っています。

和田委員長 朝7時に暴風警報が出ていたからといって、その時点で全員に連絡が行くということではなく、そのような場合は、もうお休みですよという連絡が行っているということですね。

小川学事課長 そのような連絡を前々からしています。

和田委員長 そのあたりで、少し誤解があるのかもしれませんがね。

志村教育長 台風18号については金曜日の13時半に決定しなければ、文書での連絡をできなかったのです。実際に2日後の、月曜日の朝の判断ですから、その通知をどう読み取るかという問題があり

ました。7時の時点では警報は出ていましたが、それほど雨が降っていなかったのも、実は私の家の前も近くの学校の子どもが一人二人歩いていて、様子を見て、誰もいないと帰っていました。それは私事ですが、家内からは、これは自分で判断する問題意識の場面であり、変なおじさんが出ていかないほうが良いのだろうと言われ、私はそのときは出ませんでした。しかし、その通知の伝わり方が家庭や保護者によって同じように伝わらないんだということ、二重三重の手を打つことは、今回やはり必要だと思いました。あの場合には、もしできれば船橋のように実施すればよかったのですが、この19号の場合には、逆に早く判断した学校が、途中で臨時休業をやめて、時間を遅らせて登校と変わったところがありました。あれはかなり混乱したのではないかと思います。

ですから、土曜日曜をまたぐ際、地域や学校の中でどう判断するかということ、ある範囲を決めておくことが必要だと私は思います。市全体で一斉にどうこうという判断がつかないこともあるでしょうし、台風の場合に比べたら地震などの場合は、それこそ一斉に避難の必要がない場合もあるので、やはり地域や学校というもので、どう判断をするか、情報を伝達するかということについて、再度各学校に研究させることが必要ではないかと改めて思いました。

ちなみに、NHKのテロップは千葉市だけでは流してくれないようで、県全体で決めない限り流れないそうです。これは一つの方法として、私たちにとっては余り使えないことがわかりましたので、少し研究させてもらいます。いずれにしても、子どもの安全・安心第一で。

内山委員 私もホームページでその基準がどうなのか初めて調べてみましたが、朝7時に教頭から「今日は子どもたちが来ませんので旗振りはいりません」と電話がありました。教育長が言うように、小雨でしたから、私もいけると思い、出ようと思いました。基準を見れば当然、警報が出ていますから、休校だろうと思いましたが、そのような意味では少々わかりづらいような気がします。

これは、雪の場合はもっとひどいかもしれません。たまたま新港の工場地帯も降っていたのですが、美浜大橋を越えると降ってなかったことがありました。このように、局所的にどんと降ることもありますから、その辺も判断が必要だと思いますね。そよ



うな点では、色々な条件がありますから、気をつけてください。

和田委員長 県や各市町村の教育委員会、それから学校単位、両方とも足並みをそろえるというのは難しいと思いますが、協力し合ったほうが良いと思います。よろしくお願いします。

- (5) 平成26年度千葉市小・中・特別支援学校管理職選考について、伊藤教職員課長から報告があった。

伊藤教職員課長 平成27年度の千葉市立小中特別支援学校管理職選考についてですが、口頭で報告します。

11月1日(土)、2日(日)の2日間で管理職選考試験を実施します。本年6月に選考要項ほか関係書類を各学校に配布、通知し、8月20日から29日まで志願者の受付を行いました。その結果、校長候補者については75人、参考までに昨年度は68人で、教頭候補者については67人、昨年度64人、主幹教諭は8人、昨年度7人の志願状況となっています。現在、本課において実施要綱などを整え、既に志願者のいる学校の校長宛てに文書にて通知をしています。

なお、昨年度と同様に行政職にある教員出身者の管理職選考についても同日に実施する予定です。

- (6) 第11回定例会は、平成26年11月19日(水)午後2時より開催することと決定した。

## 8 閉会

和田委員長より閉会を宣言